

「あいだの気配—三代宮永東山、宮永甲太郎、宮永愛子」

2026 年 3 月 11 日（水）—4 月 11 日（土）

ミヅマアートギャラリーでは、3 月 11 日（水）より「あいだの気配—三代宮永東山、宮永甲太郎、宮永愛子」を開催いたします。本展は宮永愛子キュレーションによる、愛子の父である三代宮永東山と兄の甲太郎、そして愛子の三人展です。

90 歳を迎えた父・東山は、以前のように毎日工場に立つことはなくなりましたが、幼い頃から家には常に「ものを作る人の姿」がありました。愛子は、その姿に長年勇気づけられてきたといいます。本展では、同じ家で育ち、彫刻家として活動する兄・甲太郎とともに会場構成を担当し、三人の作品が各人のまなざしを辿るように展示されます。

88 歳の父が京都で個展を開催した際、父は礼状に「ありがとう、楽しかった。次は 90 歳！」と書いた。その葉書をご覧になった三瀨さんが、「その時は、うちでやろう！」と声をかけてくださったことが、本展のきっかけとなった。

今回兄には、私自身が大学生になる頃（1990 年代初頭）の作品をリクエストし、会場構成と一緒に考えている。父・宮永東山は窯元・宮永東山窯の三代目。宮永家は 120 年以上にわたり、やきものに携わってきた。けれども形式や種類は世代ごとに異なってきたため、何を継承してきたのかと問われると、それは簡単には言葉にできない。

今、見慣れた父の作品だらけの景色の中から、どんな展示を作ろうか考えている。私たちが世代を超えて、この場所からどのように美術や時代に向き合ってきたのか。またそれぞれの作品が生まれるのを、どのように見守ってきたのか。あまりに当たり前で、気に留めたことすらなかったことを考えている。

家族それぞれのまなざしをめぐる展覧会になればと思う。兄と展示についてやり取りを重ねていると、好きなものやものの見方に似ている部分があることに気づいた。それは父をはじめ、家族や周囲の環境の中で、私たちが知らず知らずのうちに育んできたものなのかもしれない。

宮永愛子

【プロフィール】

三代宮永東山（宮永理吉）

彫刻家、陶芸家。1935 年、二代宮永東山（宮永友雄 1907-1995）のもとに生まれる。1958 年京都市立美術大学彫刻科卒業、辻晉堂や堀内正和らに学ぶ。60 年同大学専攻科を中退、渡米し、アート・スチューデント・リーグで学ぶ。62 年～69 年行動美術協会会員、70 年走泥社同人になる。99 年三代宮永東山を襲名。

陶土の質感を活かした造形から出発し、1964 年以降は磁器を中心に制作。幾何学的造形や低火度釉による色彩表現、紙型を用いた折形シリーズを経て、現在は青を基調としたモノトーンの世界観を展開。

主な展覧会に、「現代美術の動向」（国立近代美術館京都分館、1964）、「今日の日本陶芸」（デンバー美術館、アメリカ、1979）、「ジャパニーズ・スタジオ・クラフツ」（ヴィクトリア&アルバート博物館、イギリス、1995）、「京都の工芸—1945-2000」（京都国立近代美術館、東京国立近代美術館工芸館、2001）等。

日本陶磁協会賞金賞(2023)、第 38 回京都美術文化賞(2025)受賞。

宮永甲太郎

1969 年生まれ、京都市在住。1991 年金沢市立美術工芸大学彫刻科卒業。京都精華大学芸術学部造形学科教授。

レンガをはじめとする土や水、種などの自然由来の素材を用い、時間の経過や自然の作用を取り込みながら、周囲の景観と一体化するインスタレーションを主に制作。

主な展覧会に、個展「脈」（越後妻有大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006、ドラゴン現代美術館、新潟、2006）、個展「模刻」（ギャラリーなかむら、京都、2008）、「放課後の展覧会」（立誠小学校、京都、2009）、「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」（オルゴールミュージアム ホール オブ ホールズ六甲、兵庫、2010）等。

大分アジア彫刻展優秀賞(2004)、京都市芸術新人賞(2007)受賞。

宮永愛子

1974 年生まれ、京都市在住。2008 年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。

日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩や葉脈、陶器の貫入音を使ったインスタレーションなど、気配の痕跡を用いて時間を視覚化し、「変わりながらも存在し続ける世界」を表現した作品で注目を集める。

主な近年の展覧会に、個展「1900 – 2025 : souffle de lumière」（ル・クレジオギャラリー、パリ、フランス、2025）、個展「宮永愛子 詩を包む」（富山市ガラス美術館、2023）、「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」（森美術館、東京、2023）、

京都市京セラ美術館 開館1周年記念展「コレクションとの対話：6つの部屋」(京都市京セラ美術館、2021)等。

第70回芸術選奨文部科学大臣新人賞(2020)、第33回京都美術文化賞(2020)受賞。

【オープニングレセプション】

2026年3月11日(水) 18~20時

〈会期〉2026年3月11日(水) - 4月11日(土) 12:00 - 19:00 日、月、祝休廊

〈会場〉ミヅマアートギャラリー

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3-13 神楽ビル2F

TEL:03-3268-2500 / FAX:03-3268-8844

〈今後の展示予定〉 宮永愛子

「A Book Arts Revolution」

2026年3月4日(水) ~ 3月29日(日)

[AND COLLECTION Contemporary Art](#)、東京

〈お問い合わせ〉

ミヅマアートギャラリー尾羽沢 〈obazawa@mizuma-art.co.jp〉、長田 〈mosada@mizuma-art.co.jp〉 までお願い申し上げます。

高解像度データは以下よりダウンロードください。

<https://www.dropbox.com/scl/fi/hpc0rr0zrn0ky5j57ol9k/presence-in-between.jpg?rlkey=5i5f7ocq96litvcojp7jrk8xf&dl=0>



《京都市伏見区深草 2026.02.07》

©MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery